

地域生活体験の中で砂防を学ぶ

【キャンプ砂防（平成24年8月27日～31日）】

「キャンプ砂防」は、砂防を学ぶ、または砂防に関心を持つ大学・高専の学生を対象に実施され、砂防の意義と中山間地域に生活する人々に果たす役割を地域での体験や生活を通じて学び、砂防に対する認識を深め、中山間地の抱える課題を学び考えることを目的として実施されています。

また、この取組は平成8年度より国土交通省管轄の全国の砂防事務所において実施されています。

利根川水系砂防事務所では、8月27日～31日の日程で大学生3名を迎え開催しました。



鎌原観音堂



遅沢第五床固工工事



遅沢第五床固工工事



愛妻の丘より浅間山を望む

当長野原出張所では二日目28日を担当しました。

当出張所の管内には浅間山・草津白根山等の火山があり、これらの火山は温泉や観光、肥沃な大地が高原野菜を育て周辺地域に恩恵をもたらしています。その一方で、火山噴火による災害や火山噴火の噴出物の堆積により形成された地形は脆弱で土砂災害の危険性を高め、酸性度の高い河川の水はコンクリートや金属を溶かし地域住民に損害をもたらしてきました。

現場で浅間山直轄火山砂防対策や砂防施設の耐酸工法について学ぶこととあわせ、砂防事業を実施する地域に触れ、話を聞き、実体験の中で砂防が果たす役割、地域が抱える課題を学んでいただきました。

最終日31日には、各学生より成果の発表があり、砂防の重要性等地域に果たす役割を理解していただいたことを確認しました。



東大地震研究所浅間山観測所



片蓋川から浅間山を望む



発表の様子